



女性首長リレー連載

# 仕事のモットー

ワタシ流 第6回

埼玉県所沢市長 当麻よし子

とうま・よしこ 1949年福岡県大牟田市生まれ。慶応義塾大学法学部卒。子育てをしながら消費者活動や女性の地位向上運動に取り組み、79年から所沢市議会議員3期、99年から埼玉県議会議員を2期務める。2007年10月から所沢市長に就任。趣味は映画鑑賞。好きな食べ物は焼きだんごとトマト。家族は夫と子ども2人。

## 半歩前を見通し、声なき声を吸い上げる

### ●“今、何をなすべきか？”は永遠の宿題

埼玉県所沢市は、都心から30km圏内に位置する人口34万人の特例市である。今年、市制施行60周年を迎える。私は、市議・県議を経て、2007（平成19）年10月、市長に就任した。

マニフェストには、3つのK（子ども・高齢者・環境）をキーワードに、4つのS（① Safety：生活が第一・あったか市政 ② Soft：人と自然が共生するまち ③ Smile：子どもたちに笑顔を！ ④ Save：生活者の目線で市役所改革）を掲げた。市議・県議を通算20年間にわたって務めたため、行政をチェックする立場での活動が長かった。今は市長として反対にチェックされる立場となったわけだが、議会活動の経験は、現在の私の大きな糧になっている。

さて、地方自治体を取り巻く環境が厳しさを増す中、住民にもっとも身近な自治体として、今、何をなすべきか？ 私自身、答えを求め自問自答・悪戦苦闘している毎日だ。この命題は、地方自治体にとっては、未来を見据えた現在進行形の命題であり、住民福祉の向上を本旨とする自治体の行政運営に携わる首長や職員が、常に念頭におきながらその時々々の民意に的確に対応していくための永遠の宿題であると思っている。

### ●半歩前を見通す力と感性を磨く

住民にもっとも身近な地方政府として、なすべき役割を見定め、方向性を見失わないよう民意を的確に捉える必要がある。そして現状を把握する中から将来を見通していく想像力が求められる。

市長や職員に必要な素養とは、住民に共感し、多方面から課題を整理し、将来に向けた政策を導き出す力

であり、世の中の半歩前を見通す力ではないかと思う。私自身、日常業務に忙殺されることの多い日々だが、最終判断を下す市長として、その時点で最良といえる判断をすることが首長の責務であると考えている。判断の誤りを最小にとどめるためにも、半歩前を見通す力と自らの感性を磨く努力を怠らないようにしたい。

### ●水面下の声なき声を大事に！

所沢市では、まちの憲法といわれる「自治基本条例」と「第5次総合計画」の策定作業を、公募市民との協働で進めている。ほぼ骨格が固まり、それぞれ9月と12月議会へ上程する予定だ。今回の策定作業の特徴は、公募市民の積極的・能動的な参加が広がりを果たしたことだろう。全国の自治体と同様に、当市でも参加と協働を進めるために、さまざまな創意工夫をし、なるべく多くの市民の意見を市政へ反映するため、偏りのない意見集約の試みを行っている。

昨今、地方財政が厳しさを増す中で、住民負担や民間委託などサービスと受益のあり方についても見直しを図る必要性が生じており、職員は、市民の苦情対応に追われることも多くなってきた。

行政はどうしても声の大きい方を向きがちだが、水面には表れてこない声なき声（こちらのほうが圧倒的な数と思われる）を聞き取り、吸い上げていくシステムをつくる必要があると感じている。その仕組みを構築できれば、公平公正で中立的な民意を把握するシステムとなり得る。しかし一方で、1人の意見の背後には、100人の意見が包含されており、たった1人の意見の中に解決の糸口となる宝物が隠されているということも忘れてはならないと言いつけています。